

○平成28年度 農地中間管理事業に係る担い手との意見交換の実績

平成29年3月31日現在

<担い手との意見交換実績>

14回（延べ125経営体）

<担い手からの意見>

- ・ 地域に他に担い手農家がないので、多くの貸付希望がある。これ以上は受けれない状況。条件が悪い農地は手放すことも考えている。
- ・ 中山間地域で農地集積を進めるうえでの障害は、鳥獣害対策と畦畔管理。
- ・ 市町村、JA、機構が、地域の実情をしっかり把握して進める必要がある。
- ・ 農地の集積・集約するためには、基盤整備（暗渠排水）が必要。
- ・ 機構集積協力金は、これから取り組む経営体のため、平成35年度まで継続して予算化していただきたい。
- ・ 機構を積極的に活用する担い手に対しては、しっかりとした支援を望む。機構活用と支援制度のヒヤ付けをより強くしていただきたい。
- ・ 機構集積協力金は、畦畔率に応じて交付単価を変動させるなど、中山間地域などの条件不利地域に配慮した体系とすべき。
- ・ 農地集積に関する地域の話合いは時間がかかる。急な制度変更はやめていただきたい。
- ・ 中山間地域では、条件の悪い農地を集積するほど経営が悪化するため、受ける農地を選択せざるを得ない。受けられない農地は耕作放棄地となっている。
- ・ 今後、相続未登記農地が更に増えていくと思われる所以、10年後の更新がスムーズに出来る制度として欲しい。

<開催実績>

開催日	参集者
平成28年	認定農業者、集落営農他【西濃地域】
	新規就農者他【飛騨地域】
	農業法人（認定農業者）他【東濃地域】
	認定農業者、指導農業士他【飛騨地域】
	農業法人（認定農業者を含む）他【全域】
	農業法人（認定農業者）他【恵那地域】
	農業法人（認定農業者を含む）、認定農業者他【全域】
	農業法人（認定農業者を含む）他【飛騨地域】
	農業法人（認定農業者）他【全域】
	農外参入企業（認定農業者を含む）他【全域】
	新規就農者【飛騨地域】
	新規就農者【飛騨地域】
	農業法人（認定農業者）、認定農業者他【東濃地域】
	認定農業者他【中濃地域】